

第23回参議院議員選挙の結果を踏まえたコメント

2013年7月22日
日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

第23回参議院議員選挙は、7月21日投開票が行われ、民主党が選挙前の議席を大幅に減らし、昨年の衆議院議員選挙に引き続き、国民の厳しい審判を受ける結果となった。

今回の参議院議員選挙の最大の争点は安倍政権の経済政策「アベノミクス」への評価であった。即ち、政府・与党の大胆な金融緩和、機動的な財政政策、成長戦略というアベノミクスの「3本の矢」によりデフレ脱却を通じた景気回復が可能かを問うものであった。一方、民主党は「給与が一向に上がらない中での物価上昇というアベノミクスの『影』」を指摘し、中小企業や年金生活を含めた生活者、働く者の視点に立ち、子ども、子育て、教育、人への投資など民主党政権での実績や日本の未来を切り拓く政策を訴えてきた。しかしながら民主党は自民党批判の受け皿となりきれず、参議院においても、第一党の座を明け渡すこととなった。

しかしながら、わが国の政治において、民主党が果たす役割は決して小さなものではない。国民からの厳しい審判を厳粛に受け止め、反省と教訓を踏まえ、民主党の立て直しを早急にはかり、生活者や働く者の視点に立った政策を進める政党として、一丸となって出直しを図り、国民の信頼を回復し、再び政権与党となるよう捲土重来を期さなければならない。

JR連合は今次選挙において、最重点候補のJR連合国会議員懇談会副会長の榛葉賀津也氏（静岡県）、重点候補の同幹事の長浜博行氏（千葉県）、そして「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」所属の選挙区候補者及び全国比例区の川合孝典氏（U Aゼンセン）、浜野喜史氏（電力総連）、定光克之氏（J P労組）、石上俊雄氏（電機連合）の4氏を合わせ、計31名を推薦し、全力で戦いを展開してきた。その結果、最重点候補の榛葉賀津也氏、重点候補の長浜博行氏が見事当選を果たした。一方、議員フォーラム推薦候補者は14名中、当選はわずかに3名にとどまった。比例代表は、浜野喜史氏、石上俊雄氏が当選したものの、全推薦候補者31名中10名の当選にとどまる非常に厳しい結果となった。

JR連合は、今回の選挙結果を厳粛に受け止め、引き続き、政策課題や組織課題の前進に向け、JR連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラムとのより一層の連携強化を図ることとする。あわせて、投票率が52.61%と戦後3番目に低かった点を踏まえ、労働組合の役割を今一度自覚し、JR連合構成組織の強化に全力を挙げることをする。

最後に、今次選挙に対し昼夜を問わず献身的に取り組んでいただいた全ての組合員に感謝申しあげる。

以上